

共生・地域づくり分科会に関する検討・報告（試案）

	札幌市の現状	課題	必要な施策	提言
地域づくり	現在の札幌には、先行的な実践を行っている非営利民間組織がたくさんあります。しかしこれらの組織には十分な支援がされていません。また、その貴重な経験を生かすしくみが作られていません。	先行的な実践を支援し、より速く普遍化されるしくみづくりが必要です。	先行的実践の質を評価し、さらに質を高めるための支援を行います。 また体験からえられたノウハウの蓄積と伝達を支援します。	市民が主体となる先行的実践の評価制度をつくります。すぐれた先行的実践を支援できる、柔軟な補助制度をつくります。
少子化	札幌市の女性の合計特殊出生率は、政令都市の中で最下位です。	最下位から第1位になるように、努力します。	出生時から学童期に至る、子育て支援制度の充実をはかります。	必要な規制緩和を検討します。例として・・・ 必要な市の事業を検討します。例として、共同学童保育所のための施設の借り上げ、貸与制度を検討します。
高齢・障がい者との共生	札幌市の交通バリアフリーは、かなりすすみました。しかし、小・中学校、高等学校や子供が遊ぶ公園などの生活バリアフリーは十分ではありません。	子供が育つ場所のバリアフリー化が必要です。	交通バリアフリーをさらに充実させると共に、生活バリアフリーもすすめます。	学校、公園の新設・改築時に、あわせてバリアフリー化を行います。
	札幌市民は、障がい者と共生していません。知的障害者を例にとると、札幌市の知的障がい者で在宅以外で生活をしている人のうち、5割は市外の大規模施設、3割は市内の大規模施設に入所しています。また、1割は、市外の共同生活の場で暮らしています。市内の共同生活の場で暮らすことができている人は、残りの1割だけです。	これからは、札幌市で生まれ育った障がい者は、札幌市で地域生活ができるようにするという、共生の基本を目指します。	「札幌市障がい者福祉計画」のよりきめ細かい実施計画を、障がい者自身で作ります。障がい者が委託した人々が、その作業を手伝います。	必要な規制緩和を検討します。例として、母体施設がなくても、グループホームを作ることを認めます。 必要な市の事業を検討します。例として、よりきめの細かいケアを要する人々を対象としたホームを支援できる、柔軟な補助制度を検討します。
	札幌市は、要介護高齢者の社会的入院が多いといわれています。一方で、痴呆性高齢者のグループホーム数は、政令都市の中で一番多く、高齢者住宅もたくさんできています。しかし、グループホームの質はまちまちであり、高齢者住宅の実態も十分に把握されていません。	要介護高齢者のニーズにしたがい、質の高い多様な住居の形態を開発します。	市内および全国の先行事例をもとに、高齢者住宅のあり方および質を維持するための第三者評価を含めたしくみを検討します。	必要な規制緩和を検討します。例として様々な年代、障がい種別を越えたケア施設を認めます。 必要な市の事業を検討します。例として、一定の質を満たしている住宅を支援できる、柔軟な補助制度を検討します。
健康づくり	札幌市国民健康保険に加入している市民の一部の保険料負担が、過重になっています。	負担は、公平に分かち合います。	公平な分かち合いが実現できる方法を、積極的に検討します。	国民健康保険運営協議会において、公平性を実現する賦課方式の改正を検討します。
	現在の札幌では、全国と比較して、特に若年層の人口妊娠中絶率が高くなっています。	比率をひきさげる努力をします。	高校生が、改善に向けての計画をつくります。高校生が委託した人々が、その作業を手伝います。	高校生の提言をくみとり、実施するしくみを検討します。